

29年度

保育所の自己評価 チェックシート①

アートチャイルドケア尾張一宮保育園

保育目標		お友だち開発プロジェクトNo.1		
		評価基準	評価項目ごとの評価結果	非該当
人権の尊重	1	子どもの人権に十分配慮するとともに、文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てよう配慮している	A・B合わせて94%。 特に項目3の個人情報については高い自己評価であった。	1%
	2	性差への先入観による固定的な観念や役割分業意識を植え付けないよう配慮している		
	3	個人情報は、個人の人格尊重の理念の下に、慎重に取り扱われるべきものであることを理解している		
説明責任	4	理念や基本方針が利用者等に周知されている	・A・Bで75%。 より方針・理念について周知していく。	無
	5	利用者が意見を述べやすい体制が確保されている		
情報保護	6	利用者のプライバシー保護に関する規定・マニュアル等を整備している	・A・B合わせて93%。 毎年、守秘義務の研修を行っている成果の表れか。	無
	7	守秘義務の意義や目的を全職員に周知している		
苦情解決	8	保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、迅速に対応している	・A・B合わせて83%。 Cは14%であった。より迅速に対応していきたい。	3.0%
	9	苦情解決の仕組みが確立され、十分に周知・機能している		
保育内容（養護と教育）	10	養護は保育士などが行う援助や係わりであり、教育は子どもの活動がより豊かに展開されるための発達援助であることを理解し、実践している	・A 17%、B 63%、C 12%であった。 特に環境設定の項目13・16について自己評価が低く、それぞれAが10%・7%であった。 評価が高かった項目は12・18。 一段と努力して、理解を深め環境を大切に保育していきたい。	8%
	11	子どもの生活の連続性を踏まえ、保護者との連携・情報共有が行われている		
	12	子ども一人ひとりへの理解を深め、受容しようと努めている		
	13	室内外問わず、子どもが自発的に活動できる環境が整備されている		
	14	基本的な生活習慣や生理現象に関しては、一人ひとりの子どもの状況に応じて対応している		
	15	身近な自然や社会と係わりやすい機会を多く取り入れている		
	16	さまざまな表現あそびが自由に体験できるよう、年齢に合わせた環境作りをしている		
	17	遊びや生活を通して、子どもの社会性が育つよう配慮している		
	18	外遊びや散歩など、戸外で遊ぶ機会を多く取り入れている（週に4回以上）		
	19	保育は、環境（人的・物的・社会的・空間的）を通して行われることを職員が理解している		
虐待の予防	21	虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、得られた情報が速やかに園長まで届くようになっている	・虐待に対するマニュアルがあり、また研修も毎年行っている。今後も徹底していきたい。	無
	22	虐待を受けていると疑われる子どもが見つかった場合には、所定の用紙に記録を残し、しかるべき対応をしている		
	23	虐待を受けていると疑われる子どもの保護者への対応について児童相談所等の関係機関に照会、通告を行う体制が整っている		
	24	施設内で、職員による虐待または、虐待と疑われる行為をすることはしない		
	25	感情を刺激されて思わず不適切な対応等をとる職員がいる場合は、声をかけあったり、その場から一時離れてもらうなど、園内で見逃さずに対応している		
特別な支援を要する場合	26	特別な支援を要する子どもについて、職員間で定期的に話し合う機会を設けている	・A・B合わせて95%と高評価であった。 外部機関の支援や本社から専門員を呼んで積極的に、園全体で取り組んでいる。	10%
	27	必要に応じて、研修を行い、医療機関や専門機関と連携をとっている		
	28	保護者と必要に応じて情報の共有を行い、サポートをしている		
	29	環境が整備され、保育の内容や方法に配慮している		
保護者への支援	30	ひとり一人の保護者と日常的な情報交換に加え、個別面談等を行い相談を受けるとともに、必要に応じて専門の関係機関の相談窓口等を紹介している	・高評価は項目31で、A・B合わせて92%であった。保護者とのやりとりについてメモは必須。	6%
	31	家庭の状況や保護者との情報交換の内容が必要に応じて記録されている		
	32	子どもの発達や育児等について、懇談会等の話し合いの場に加えて、保護者同士の子育ての経験を共有できる場を設けている		

29年度

保育所の自己評価 チェックシート②

		評価基準	評価項目ごとの評価結果	非該当
健康支援	33	子どもの日々の健康状態を関係職員に周知しており、一人一人に応じた適切な対応がされている	・A・B合わせて91～97%と高評価であった。 うち比較的低かった項目は36。年齢に応じた習慣・態度の育成について迷いがあるのかもしれない。保育士自身の理解も深めたい。	無
	34	子どもの健康に関する保健計画を作成し、職員間で共有するとともに、子どもの健康の保持・増進に努めている		
	35	内科健診、歯科検診、身体測定等を定期的に行い、配慮が必要な結果であれば、医師の指示に従っている		
	36	年齢に応じて、健康・安全な生活に必要な習慣や態度を育成している		
	37	配慮を要する子どもの食事について、専門医による食事の内容に関する指示のもとで除去食を提供している		
衛生管理	38	子どもが安全で健康的に過ごせる環境を作っている(清掃等)	・A・B合わせて80～100%の高評価。項目40の環境設定についてより成長を望む。	1%
	39	子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している(温度・湿度・換気・音・遮光など)		
	40	子どもが自分から思わず係わりたくなるような魅力ある環境構成をしている(発達・興味など)		
保育過程・指導計画・記録	41	保育過程は全職員が参画し、発達過程の共通理解のもと作成している	・B評価が50～65%。 今後は指導計画の評価を行い、その結果に基づいて計画の見直しをしたい。	5%
	42	指導計画の評価を定期的に行い、その結果に基づき指導計画を見直している		
	43	長時間にわたる保育の環境整備がされ、保育の内容や方法に配慮が見られる		
	44	保育の計画は、0歳から就学前までの一貫したものとなっている		
	45	保育計画は保育の基本方針に基づき、さらに地域の実態や保護者の意向等を考慮して作成されている		
	46	保育日誌や指導計画を通して、計画・実践・評価・改善のサイクルを利用した自己評価を行うとともに、職員相互の話し合いを通じて明確になった課題を改善している		
	47	進級児の申し送りは、個人記録等を活用し丁寧に行い、子どもたちの発達や遊びの連続性及び関連性を円滑にサポートしている		
安全対策・事故防止	48	保育設備、遊具、環境において安全が保たれている	・高評価の項目は49。 感染症対策は1件でも発症の時点で公表し注意を促すと共に消毒作業を行う。 ・低評価は項目48。 遊具がないこと自体を安全が保たれていないととらえている。 遊具がない園庭でいかに安全に楽しく過ごすか考えて保育していきたい。	3%
	49	感染症発生時に対応できるマニュアルがあり、発生状況を保護者に通知、拡大の防止に取り組んでいる		
	50	事故防止等のチェックリスト(安全チェックリスト等)やヒヤリハットを活用し、危険箇所はすぐに改善または職員間での共有を行い、事故防止に向けて具体的な取り組みを行っている		
	51	事故の再発防止に関しては、職員間で検証と振り返りを行い、同じ事故を起こさないように努めている		
	52	調理場、水回り等の衛生管理は、マニュアルに基づいて適切に実施されている		
	53	事故や天災が発生した場合、速やかに対応できる体制づくりができています		
	54	アレルギーの発症について、配慮が必要な園児がわかり、対応方法が全職員に周知されている		
	55	不審者などの侵入時に対応できる体制を職員間で共有している		
研修計画	57	研修に対しての基本姿勢が示され、個々の職員に対する研修計画を立てている	・研修計画を29年度から各々立てて取り組んでいる。	
	58	研修を受けた内容や結果を職員全体に周知し、保育業務に反映している		
	59	職員の研修に関する評価を行い次の研修計画に反映している		
職員の資質向上	60	各職員に期待される役割、目標、人材育成の方法が明確化され、計画的に行われている	・職員の資質向上は一大課題である。 やりがいや満足感をもてる人材育成を目指したい。 また更なる保育力の向上をめざしていく。	6%
	61	職員連携が確立されており、経験者が指導するOJTの仕組みができています		
	62	非常勤職員に関しても資質向上に向け、研修の機会を設けている		
	63	職員が不正・不適切な行為を行わないよう守るべき法、規範、倫理が明文化され、職員に周知されている		
	57	職員が自らの役割と課題を認識し、やりがいや満足感を持てるように人材育成を行っている		

29年度

保育所の自己評価 チェックシート③

		評価基準	評価項目ごとの評価結果	非該当
地域との連携・子育て支援	65	小学校との間で、小学生と園児が交流する機会を設けており、定期的に情報交換するなどの連携体制がある	・地域連携も開園以来の課題である。 項目66保育所の園庭解放は今年度から月に1回開催。	7%
	66	保育所の資源(施設開放、相談援助、交流の場、情報提供)を開放している		
	67	職員が子育て支援の重要性を認識し、保護者が安心して気持ちよく利用できるように共通認識している		
	68	実習生等の受け入れマニュアルがあり、保育所の基本姿勢や方針を職員に周知している		
	69	地域の人材、設備、機能等を活用し、積極的に地域との関係作りをしている		
	70	関係機関、地域の団体などの情報を職員が共有し、必要に応じた仲介をしている		
食育	71	職員が食育の基本を理解し、食育の計画を策定している	・A・B合わせて84%。 中庭でナスを植え収穫したり、オクラを育ててスタンプ遊びをしたりした。	9%
	72	食育を通して子どもたちが食事を楽しむことができる工夫をしている		
	73	子どもの食生活を充実させるために、家庭へも食育の取組や食事の重要性を説明している		
	74	文化、習慣の違いなど、個別に配慮した食事を提供している		
施設長の責務	78	保育所の役割や社会的責任を適切に果たし、保育所組織の専門性の向上に努めている	・A・B合わせて84%。 施設長と職員力を合わせ、子どもたちの幸せのために今後も良い園作りをしていきたい。	23%
	79	保育士等・保育所の自己評価等の結果を踏まえ、職員と協力して改善に努めている		
	80	保育所の専門性を高め、活性化を図るため、自己研鑽に対する援助や助言をしている		
	81	遵守すべき法令などを正しく理解するための取組を行っている		
年度末の評価・反省	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な保育サービスのひずみが子どもに出ていることを実感している。 ・園庭が狭いため、年度の初めは散歩にも出られず、不便。 ・問題を一人で抱え込まず、周りに報告したり相談する必要を痛感。 ・乳児と幼児の連携を深める。 ・園内研修で気が引き締まり、確認する機会となっている。 ・実践的な研修をしたい。 ・今年度学んだことを次につなげる。 ・周りの保育士から学んだり、教えられたり、助けてもらった。感謝。 (栄養士) <ul style="list-style-type: none"> ・行事食に力を入れた。 ・食育の掲示物に興味を持ってもらった。 		次年度へ向けた保育所としての課題 <ul style="list-style-type: none"> ・よりよい園にするという気持ちが大切。 ・保護者の気持ちに寄り添いたい。 ・保育士同士で学び合ったり、注意しあえる関係でありたい。 ・保育指針の改訂に対応できるか不安がある。 ・報連相が大切であるし気を付けていく。 ・低年齢・長時間保育の子どもが多くなる中、子どもの気持ちに寄り添いたい。 ・わが子を預けたいと思える保育園にしたい。 (栄養士) <ul style="list-style-type: none"> ・乳児にも食育を。 ・日ごろからクラスに関わりたい。 ・研修に積極的に参加したい。 	
	施設長所見	<ul style="list-style-type: none"> ・開園4年目を向かえ、毎年園なりに個人なりに目標をもってやってきた。 そんななか自己評価を行う事で、改めてきっちり振り返り、反省が出来たように思う。大切なのは、反省を次につなげ成長し続ける事。 成長しきれなくても成長したいと思う事が大切だと思う。 言葉にするのは簡単だが、努力し続けることが難しい現実もある。 自園は一時保育・休日保育・病後児保育・長時間の延長保育を受け入れ、多様なニーズに対応している。 保護者支援と言われるが、保護者の気持ちに寄り添うと共に、私たちは保育士である以上、子どもたちの笑顔のために何が良いかを第一に考える。そのためには少ご無理をお願いするときもあるかもしれないが、ご理解いただきたい。 今後も、園全体で力を合わせて、アートチャイルドケア尾張一宮保育園の子どもたちを明るい笑顔・感謝の気持ちの方針のもと、育てていきたい。 		